



やっていいこと悪いこと

前回「思春期」について考えてきましたが、世の中には、やっていいことと悪いことがあります。

殺人・暴行・器物破損・窃盗・詐欺など犯罪に当たる行為をやってはいけないのは当然のことですが、道義的に許されないことがあります。これは、「思春期」であろうがなかろうが、関係のないことです。

大妻女子大学の校訓は衝撃的です。

「恥を知れ」です。

ちょっとドキッとしてしまいますが、あえてこれを校訓にしているのには、深い考えがあるようです。創設者の大妻コタカは「これは決して他人に対して言うことではなくて、あくまでも自分に対して言うことである。人に見られたり、聞かれて恥ずかしいようなことをしたかどうかを自分で戒めることである」とつねづね教えてきたそうです。

犯罪ではないにしても、人間が社会で生活していく以上、許されないことはあるはず。それに反した場合、刑罰はなくても、その人は周りから疎んじられ、よい人間関係をつくれなくなってしまいます。何より、自分自身に嘘はつけません。

自分自身を「くだらない人間」にしてしまうのも、「あの人といると幸せになれる」と思われるような人になっていくのも、その人自身にかかっているのです。



幸運に恵まれて、この世に生を受けたのですから、自分が「くだらない人間」になってしまうのは、とても残念なことです。

人を傷つける

言葉と行動を振り返らなければなりません。悪ふざけでは済まされません。

人をおとしめる

自分がいい思いをできるなら、人はどうなってもいいという考え方は、「くだらない人間」をつくります。

思春期のうちに、自分自身にこのような芽をつくってははいけません。始業式の時に、生徒たちに「自律」と「自立」の話をしました。

「自律」＝「自らを律する」＝「自分自身をコントロールできる」

＝「自分の感情と向き合い、やってはいけないことに自らブレーキをかけられる」

私も、思春期とはいえ、取り返しのつかないことをやってしまった生徒を何人も見てきました。こんな不幸なことはありません。「自律」について、考えを深めていかなければなりません。